

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病害虫防除所長
(公印省略)

平成28年度病害虫発生予察特殊報第1号の発表について

このことについて、次のとおり発表したの送付します。

平成28年度 香川県病害虫発生予察特殊報第1号

1. 病害虫名 シネラリアえそ斑紋病
病原ウイルス名 インパチェンスえそ斑紋ウイルス
(INSV; *Impatiens necrotic spot virus*)
2. 発生作物名 シネラリア
3. 発生地域 三豊市
4. 発生経過
平成27年12月、ポット栽培のシネラリアの葉に斑紋症状が認められた。本症状からウイルス性病害が疑われたため、RT-PCR法による遺伝子診断を行ったところ、インパチェンスえそ斑紋ウイルス *Impatiens necrotic spot virus* (以下INSV) が検出された。
本ウイルスによる病害は、アメリカにおいてインパチェンスで最初に発生が確認され、国内では、平成11年に静岡県のバーベナで初めて発生が確認された。近県では岡山県、山口県、愛媛県、鳥取県及び広島県で発生が確認されており、本県では初確認である。
5. 病徴
葉に斑紋、輪紋、条斑を伴うえそ症状が生じるほか、退緑斑点などのモザイク症状を引き起こす。なお、これらの症状は夏季の高温期には一時的に見られなくなることがある。
6. 伝染
 - (1) 本ウイルスは、ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマにより媒介されるが、特にミカンキイロアザミウマの伝搬能力が高い。これらのアザミウマは幼虫の時にのみ本ウイルスを獲得し、保毒幼虫が成虫になってウイルスを媒介する。媒介虫は一旦保毒すると永続的にウイルスを伝搬するが、経卵伝染はしない。
 - (2) 汁液接種によって伝染は可能であるが、接触伝染の可能性は低いとされている。また、土壌伝染、種子伝染は報告されていない。
 - (3) 本ウイルスの宿主範囲は広く、花き類を中心に多くの植物で感染が報告されている。
7. 防除上の注意等
 - (1) 発病株は伝染源になるので、見つけ次第取り除き、ポリ袋に密閉するなどして適切に処分する。
 - (2) 媒介虫であるアザミウマ類を防除するとともに、施設では開口部に防虫ネット(目合い0.8mm以下)を設置するなど侵入防止対策を講じる。
 - (3) 施設内外の雑草はミカンキイロアザミウマの生息場所となるので、除草に努める。

- (4) 本ウイルスの宿主範囲は広いため、施設内には栽培に関係のない植物を持ち込まない。
(5) 青色粘着トラップを設置するなどしてアザミウマ類の早期発見に努める。



写真1 シネラリアのINSV感染株



写真2 INSVのえそ症状を伴う罹病葉